

2026年4月10日

## 台湾・3月輸出額は過去最高額を更新(Asia Weekly(4/6~4/10))

~台湾、タイ、フィリピンで原油高がエネルギー価格を大きく押し上げる動き~

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

| 発表日     | 指標、イベントなど               | 結果     | コンセンサス | 前回     |
|---------|-------------------------|--------|--------|--------|
| 4/6(月)  | (シンガポール)2月小売売上高(前年比)    | +8.3%  | --     | ▲0.5%  |
| 4/7(火)  | (フィリピン)3月消費者物価(前年比)     | +4.1%  | +3.8%  | +2.4%  |
|         | (タイ)3月消費者物価(前年比)        | ▲0.08% | +0.20% | ▲0.88% |
| 4/8(水)  | (ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利) | 2.25%  | 2.25%  | 2.25%  |
|         | (インド)金融政策委員会(レポ金利)      | 5.25%  | 5.25%  | 5.25%  |
|         | (台湾)3月消費者物価(前年比)        | +1.20% | +1.65% | +1.77% |
| 4/9(木)  | (マレーシア)2月鉱工業生産(前年比)     | +3.1%  | +5.2%  | +5.9%  |
| 4/10(金) | (中国)3月消費者物価(前年比)        | +1.0%  | +1.2%  | +1.3%  |
|         | 3月生産者物価(前年比)            | +0.5%  | +0.4%  | ▲0.9%  |
|         | (韓国)金融政策委員会(政策金利)       | 2.50%  | 2.50%  | 2.50%  |
|         | (台湾)3月輸出(前年比)           | +61.8% | +33.2% | +20.6% |
|         | 3月輸入(前年比)               | +38.3% | +18.1% | +6.8%  |

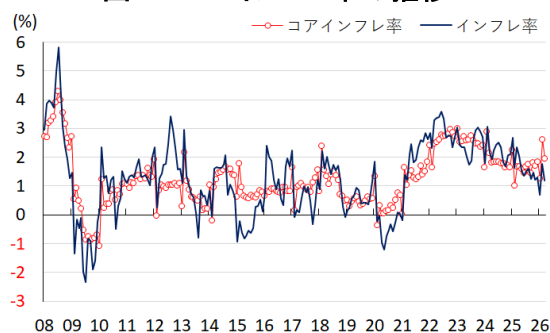
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [台湾]~春節明けの動きも重なり、3月は輸出入ともに過去最高を更新、全体的に輸出拡大の動きが続く~

8日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+1.20%となり、前月(同+1.77%)から伸びが鈍化した。前月比も▲0.51%と前月(同+0.65%)から2ヶ月ぶりの下落に転じており、イラン情勢の悪化を受けた原油価格の上昇を反映してエネルギー価格が大きく上振れする一方、生鮮食料品を中心とする食料品価格は下落しており、生活必需品の物価はまちまちの動きをみせている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.94%となり、前月(同+2.61%)から伸びが鈍化している。前月比も▲0.53%と前月(同+0.89%)から4ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の上昇が輸送コストを押し上げているうえ、金融市場における台湾ドル安による輸入物価の押し上げも重なり、財価格が幅広く上昇する動きがみられる。一方、今年春節(旧正月)連休が前年から大幅に後ろ倒しされるとともに、日数が多かったことも重なり、当月はその反動でサービス物価に下押し圧力がかかったことが物価の重しとなった。とはいえ、先行きはエネルギーなど幅広い分野で物価上昇圧力が高まることは避けられないであろう。

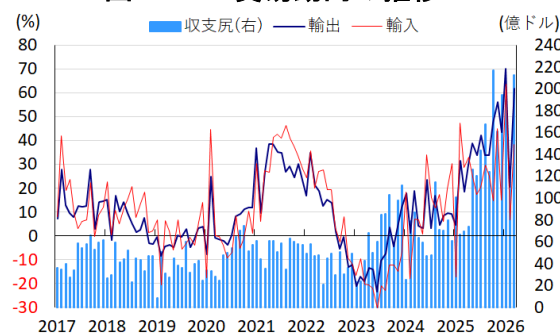
10日に発表された3月の輸出額は前年同月比+61.8%となり、前月（同+20.6%）から伸びが加速している。前月比も+28.1%と前月（同▲6.8%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、単月ベースの輸出額は過去最高額を更新している。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が大きく拡大しているほか、精密機械関連の輸出も堅調に推移しているとともに、金属関連や化学製品関連など素材・部材などの輸出も拡大しており、全体的に輸出が拡大する動きがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けやアジア新興国向けのほか、米国や欧州、日本といった先進国向けも総じて拡大している。一方の輸入額も前年同月比+38.3%となり、前月（同+6.8%）から伸びが加速している。前月比も+25.3%と前月（同▲0.9%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、単月ベースの輸入額も過去最高額を更新している。輸出の堅調さを反映して、機械製品関連など資本財のほか、金属関連や化学製品関連など素材・部材の輸入も幅広く拡大している。結果、貿易収支は+212.74億ドルと前月（+127.66億ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEICより第一ライフ資産運用経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移

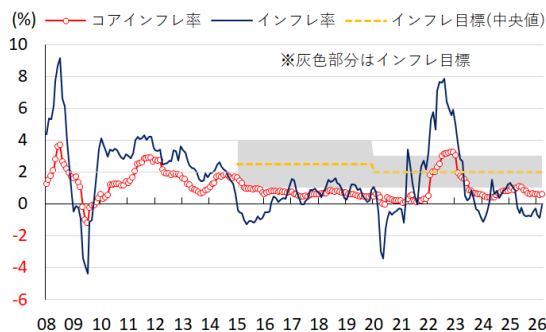


(出所)CEICより第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[タイ]～生活必需品を中心とする物価上昇にもかかわらず、インフレ率は12ヶ月連続のマイナスで推移～**

7日に発表された3月の消費者物価は前年同月比▲0.08%と12ヶ月連続のマイナスで推移しているものの、前月（同▲0.88%）からマイナス幅は縮小している。前月比は+0.60%と前月（同▲0.24%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、イラン情勢の悪化を受けた原油価格の上昇を反映してエネルギー価格が上昇しているほか、生鮮品や穀物をはじめとする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.57%と前月（同+0.56%）からわずかに加速しているものの、中銀が定める目標（2±1%）の下限（1%）を下回る伸びで推移している。そのうえ、前月比は▲0.12%と前月（同+0.13%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の上昇による輸送コストの押し上げやパーツ安による輸入物価の上昇といった上振れ要因があるにもかかわらず、財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価も伸び悩んでいる。したがって、全体的にインフレ圧力が高まりにくい状況が続いている。

図3 TH インフレ率の推移

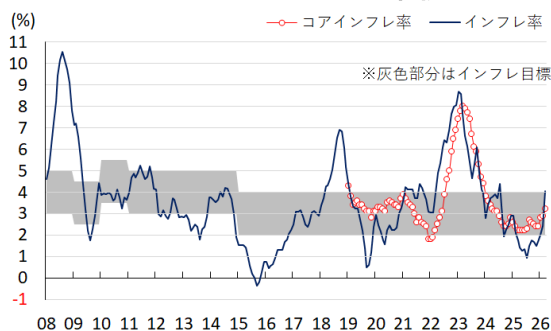


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[フィリピン]～イラン情勢悪化による原油高に金融市場でのペソ安も重なり、インフレは大きく上振れ～**

7日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+4.1%となり、前月（同+2.4%）から加速して20ヶ月ぶりに中銀が定めるインフレ目標（2～4%）を上回る伸びとなった。前月比も+1.37%と前月（同+0.15%）から上昇ペースが加速しており、イラン情勢の悪化を受けた原油価格の上昇を反映してエネルギー価格が上昇するとともに、食料品価格も幅広く上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きが確認されている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.2%と目標域内で推移しているものの、前月（同+2.9%）から加速して23ヶ月ぶりの高い伸びとなっている。前月比も+0.38%と前月（同+0.23%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇による輸送コストの上昇に加え、金融市場におけるペソ安を受けた輸入物価の押し上げも重なり、幅広く財価格が上昇しているほか、サービス物価も押し上げられるなど、財、サービス全般でインフレ圧力が強まる動きがみられる。

図4 PH インフレ率の推移



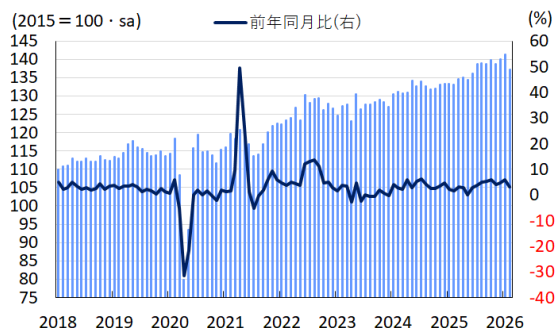
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[マレーシア]～半導体などの生産は旺盛に推移するも、製造業、鉱業問わず幅広い分野で生産が下振れ～**

9日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+3.1%となり、前月（同+5.9%）から伸びが鈍化している。前月比も▲2.91%と前月（同+0.88%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど下押し圧力が強まっている。分野別では、原油や天然ガスなど鉱業部門の生産が大幅に減少している。製造業では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連や電気機械関連の生産は引き続き旺盛な動きをみせているものの、金属関連で生産が鈍化しているほか、化学製品関連や自動車など輸送用機械関連、縫製品関連など幅広い分野で生産が下振れし

ており、生産の減速の動きが広範に及んでいる。さらに、経済活動に連動する傾向が強い発電量も減少に転じるなど、堅調に推移してきた経済活動に弱含みの兆しがみられる。

図5 MY 鉱工業生産の推移

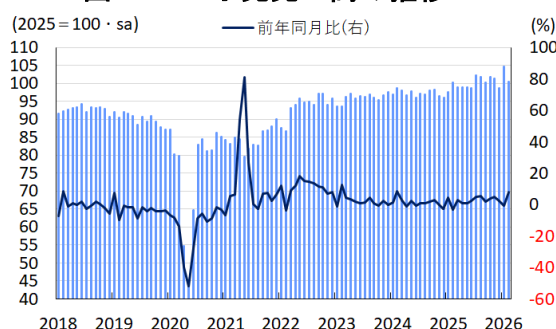


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[シンガポール]～旧正月の時期のズレが影響するも、小売売上高は全般的に頭打ちの動きを強める～**

6日に発表された2月の小売売上高は前年同月比+8.3%となり、前月(同▲0.5%)から2ヶ月ぶりのプラスに転じている。ただし、前月比は▲4.10%と前月(同+6.00%)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、今年は春節(旧正月)連休の時期が前年から大幅に後ろ倒しされるとともに、日数も多かったことが影響している。同国では月ごとの自動車需要が大きく上下に振れるとともに、小売全体の動向を左右するなか、自動車販売は前月比▲3.67%と前月(同+0.51%)から3ヶ月ぶりの減少に転じている。ただし、自動車を除いたベースでも前月比▲4.17%と前月(同+7.00%)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど力強さを欠いている。種類別では、余暇消費関連のほか、家具や電気製品など耐久消費財を中心に需要が拡大する一方、宝飾品の需要は減少するとともに、衣料品をはじめとする日用品のほか、食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要も軒並み減少しており、全般的に個人消費は弱含む動きをみせている。

図6 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上